



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行人 末吉卓也
1部60円年間共1100円

04年10月10日～05年10月29日
「聖体の年」
【司教区昇格五十周年】
小教区が活性化し
教区が一つとなるように

十戒の歴史的意味と

現代における意味を学ぶ

名瀬で第29回「司祭大会」開催

一月二十四日(月)夕
方から二十七日(木)午前
中にかけて恒例の「鹿兒島
教区司祭大会」が名瀬市の
サンプラザホテルで開催さ
れた。参加者数は、糸永司
教を含む三十三人。
講師として、昨年五月

に行われた三教区司祭合同
黙想会で黙想指導したカル
メル会管区長・中川博道師
を招いた。
初日のオリエンテーシ
ョンで中川師は「今は、あ
る意味で人が壊れていく時
代である」と話し、これだ



聖心教会聖堂で司教を中心に記念撮影

けは守らないと壊れるとい
う人間のルールとは何かと
問題提起した。この問題提
起に答えるべく二日目から
の四回の講話を通して「十
戒」の歴史的、現代的意味
が説明された。

ルールはいつでもも何か
を守るためのものである
が、十戒は、神と人との関
係性を生きた上で、しては
いけないことを明らかにし
ているルールである。第一
戒から第十戒まで具体的に
説明しながら、十戒が神と
人との関係を愛において生
きる要諦であることが示さ
れた。これに対して、神と
の関係性を断ち切らせる存
在が悪霊である。イエスは、
十二人を自分のそばに置
き、派遣して宣教させ、悪
霊を追い出す権能をお与え
になった(マルコ三・十四
・十五)。司祭のアイデン
ティティは、この関係性を
断ち切らせる存在を排除す
るところにあり、悪霊を追
い出すことと宣教は表裏の
関係である。現代は、神の
愛と隣人愛を切り離す原理
主義(神のために他者を殺

す)と人が生きるために神
を排除するアンバランスが
ある。十戒が目指している
ものは、神が神として重ん
じられつつ、他者の権利を
守ることである。十戒は、
人権を本当に守る社会の根
底を示しており、個人、社
会、国家、国際間いずれの
レベルにも当てはまると述
べた。

奄美の信者たちと交流
司祭大会の二日目、午
後六時から島内各地からの
平和と召命祈願
奄美修女が巡礼

新しい年を迎えた一月
十日(月)、奄美地区修道
女連盟の巡礼が行われた。
この日はあいにくの雨だっ
たが、地区長の野和夫神
父と大島で働く修道女三十
二人が参加した。
同連盟実施の巡礼は
「世界平和」と「召命祈願」
を目的に掲げ、三年前から
実施されているもの。今年
の小宿小教区(木村敏彦神
父)訪問によって、巡回教
会を含めて島内の三十二の
教会をすべて巡ったことに
なる。

訪問先で大野神父は教
会の歴史や当時の宣教活動
の様子を紹介し、その上で
「奄美の教会は高齢化が進
んでいるが、その中でも先
祖から受け継いだ信仰の光
を消さないよう頑張ってい
る。皆さんも祈りで支えて
欲しい」と話した。巡礼に
加わった修道女の一人は
「多くの巡回教会を抱える
司祭の苦勞が分かった。こ
の巡礼を通して世界平和や
召命の新しい芽を感じるこ
とができた」と感想を述べ
た。



春の中高生巡礼 天草の旅

テーマ 天草の信仰
日時 3月29日(火)～31日(木)
対象 中高生男女(新中1を含む)
参加費 15,000円(離島からの旅費は、主
催者側が負担します) ※兄弟姉妹
での参加、2人目は10,000円
集合 鴨池教会 29日午後1時
持参物 筆記用具 保険証のコピー
申込締切
3月13日(日) 厳守
申込問合せ
鴨池教会 泉浩二神父 099-257-8097

祈りを黙想

女性信徒の会
鹿兒島カトリック女性
信徒の会(平野博美会長)
では、二月十五日(火)こ
の時期恒例の黙想会を開催
した。今年の黙想会のテー
マは祈り。会場となったザ
ビエル教会一階ホールに集
まった会員約七十人は、小



限憲士神父(同会顧問司
祭・始良教会)の午前、午
後、二回にわたる講話に熱
心に耳を傾けていた。
小限神父は「祈らずに
生きることは、神なしに生
きることに同じ。祈れる人
間になろう」とメッセージ
を送り、祈りの基本からそ
の実践まで、丁寧に指導し
た。
講話後はミサがささげ
られ、ミサ中の献金は新潟
中越地震の被災者たちに送
金された。

青年連絡協議会

二月十一日～十三日に
かけて奈良県にある野外礼
拝センターでネットワーク
ミーティング(NWM)と
青年連絡協議会運営委員
会が開催された。NWMには
全国から七十名程の青年が
集まり、「共鳴」をテーマ
に分ち合いやそれぞれの活
動等の情報交換が行われ
た。続いて行われた運営委
員会では、同協議会のネッ
トワークの広げ方や活用の
仕方について話し合いが持
たれた。同協議会には鹿兒
島教区も賛同し運営委員
会にも参加している。

お詫びと訂正

先月号一面の表、「聖体永久礼拝リレー実施日」に
ついて、修道会も加えて十月十六日まで行うと発表し
ましたが、一月二十四日の司祭評議会で、司教区昇格
五十周年記念ミサの前日である九月十八日にカテドラ
ルで締めくくることが決まりました。したがって、礼
拝は日程の関係から修道会含まず、小教区だけで実
施することになります。お詫びして訂正いたします。

一致祈禱集会

一月二十三日(日)プ
ロテスタントとカトリック
の信者たちが共に祈る「キ
リスト教一致祈禱集会」が
あった。会場の谷山教会
(主任司祭・マイベルガ神
父)には鹿兒島市内を中心
に六十人の双方の信者が集
まり、聖書を味わい、共に
祈って同じ神を賛美した。
説教を担当したマイベ
ルガ神父は「教会の一致は
非常に大切なもの。お互い
の違いを認めあって前進す
ることが大切」とメッセー
ジを送った。

人事

▼内野洋平神父(古田町教
会助任)は、二月八日付け
で、同教会主任司祭代行。



Sr. マーガレット

▼カノッサ会
二月四日、カノッサ修
道女会総顧問シスターマ

親愛なる兄弟姉妹の皆さん!

1 旬節は、わたしたち

毎年訪れる四旬節は、わたしたち心に祈りを強め、悔い改めて心を開き、神のみ旨を従順に受け入れるよい機会を与えてくれます。四旬節の間、わたしたちがたどる霊的旅路は、キリストの死と復活という大いなる秘義を思い起こす準備をするためのものです。その実現のためには、第一に、神のみことばにより熱心に耳を傾け、さらに、より惜しみなく節制を実践することが必要です。こうすることで、苦しみのうちにある人々をより広く援助することができるようになります。

「(あなたがたは)主があなたの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに与える誓われた土地に住むことができる」(二〇・一二) 聖書的な理解によれば、老齢に達することは、いと高きかたの恵みあふれる慈しみのしるしです。ですから、長寿は神の特別な贈り物だと言えるのです。

二〇〇五 四旬節メッセージ

主を愛し、み声を聞き、主に従いなさい



教皇ヨハネ・パウロ二世

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、今年わたしがあなたがたの心に留めてほしいと願うテーマは、むしろ今日の的なもので、申命記の次の一節でよく表されていることです。「神を愛すること、それがまさしくあなたのいのちであり、あなたは長く生きる。」(二〇・二〇参照) これは、モーセがイスラエルの人々に向けて語ったことばであり、モアブの地で主との契約を結び、「あなたもあなたの子孫もいのちを得るようにし、あなたの神、主を愛し、み声を聞き、主に従う」(二〇・一二) よう人々に呼びかけたことばです。こうした主との契約への忠誠は、イスラエルにとって未来への保証でした。

となり、この問題が顕著に表れている西側世界の教会共同体ではとくにそうなるはずで。

2 人のいのちは

「殺してはならない」というおきては、すべての段階において守らるべきです。殺してはならない」というおきては、その始まりから自然な終わりまで、人命の尊重と擁護をつねに要求しています。このおきては、病氣や身体的な弱さによって、自らに頼むこともできないほど能力が衰えてしまった場合に

よのお願ひします。それによって、多くの高齢者たちが、自分たちを共同体の、そして時には自らの家族にとつてさえも重荷だと考えることがないようにし、寂しい生活を送り、孤立するか希望を失ってしまう傾きに陥らないようにすることができま。

の心は整い、いつも高齢者に向けられるはずの、愛情のこもった接待ができるようになります。科学と医学の進歩によって、今日の社会では人間の寿命は長くなり、結果として高齢者の人口が増えています。ここで要求されるのは、いわゆる「高齢」社会へのより踏み込んだ配慮です。それは、共同体全体への奉仕に参加することで、社会の構成メンバーの潜在能力を十分に生かしてもらうためです。とりわけ、高齢者が困難な状況に置かれている場合には、そのケアはすべての信者にとっての大きな関心事

もれません。人生の最終目標が近いことを知ることによって、高齢者は本質的なことに集中し、年月の経過によつても損なわれないそれらに重要性を見いだすようになりま。

まさにこうした状態にあるからこそ、高齢者は社会でその役割を果たすことができるのです。人が先人の遺した伝統によつて生き、その未来が最終的に、民族の文化的価値がどう伝えられてきたかにかかつているとしたら、高齢者の知恵と経験は、よりいっそう完全な形態の文明に向けた進歩への道を明るく照らし出すことができるでしょう。

この十年の間に、社会は高齢者のニーズにより注目するようになり、医療では緩和ケアが発展し、病者への総合的アプローチとともに、とくに長期の患者に恩恵をもたらしてきました。

も当てはまりません。年老いていくことを、その避けられない健康状態とともに、信仰の光のうちに穏やかに受け入れれば、人間としての存在に豊かな意味を与える十字架の秘義を、よりよく理解するためのはかりしれない機会にすることができま。

4 親愛なる兄弟姉妹の皆さん、

四旬節の間に、神のみことばに助けられ、各共同体が年老いていく人々に、愛情豊かな理解とともに寄り添うことがいかに大切かを省みましう。さらには、死の神秘について確信をもって考えることに慣れていく必要があること、神との最終的な出会いを、内面的な平安のうちに、「母の胎内にわたしを組み立ててくださった」(詩編一三九・一三参照) かと、そして、わたしたちを「ご自分にかたどつて、似姿に」(創世記一・二六参照) してくださったかたが受け入れてくださることへの気づきとともに、迎えることができるのです。

四旬節の旅路に伴ってくださるマリアが、すべての信者を、とくに高齢者を、死んで復活されたキリストについて、わたしたちの存在の究極的な理由として、よりいっそう深く知るよう導いてくださいます。神なる御子の忠実なしもべであるマリアが、聖アンナと聖ヨアキムとともに、「今も死を迎える時も」わたしたち一人ひとりのために取り次いでくださいますように。すべての人にわたしの祝福を送ります。

人生のこの段階で得られる自由は、高齢者に根本的な問題と向き合う機会を与えてくれます。そうした問題は、差し迫った関心事によつてか、または優先順位が低いものとして、以前は脇に押しやられていたのか

3月

四旬節の務めに励み、清い心で越の神秘を祝えますように

【十字架の使徒会祈りの意向】

小教区の活性化

今月の叙階記念日

8日	西本仁史神父	大松正弘神父
14日	柳本繁春神父	頭島 光神父
16日	道向 進神父	木村敏彦神父
17日	田原 章神父	小隈憲士神父
	小平卓保神父	末吉卓也神父
19日	下村 徹神父	美島春雄神父
	成相明人神父	国原武士神父
20日	郡山健次郎神父	泉 浩二神父
	永山幸弘神父	浜崎真実神父
	寝占教之神父	田辺 徹神父
	浜田盛茂神父	内野洋平神父
21日	石田 望神父	

- 1日(火) 奄美例会
- 6日(日) 四旬節第四主日
- 朗読奉仕者選任式・9時・鴨池
- 出水教会聖体永久礼拝
- 13日(日) 四旬節第五主日
- 阿久根教会聖体永久礼拝
- 18日(金) 教区創立記念日
- 聖ヨセフ
- 19日(土) 聖ヨセフ
- (大野和夫神父、牧山田一神父、下村徹神父、ムイベルガ神父、サンタマリア神父(霊名))
- 20日(日) 受難の主日(枝の主日) 世界青年の日
- 入来教会聖体永久礼拝
- 24日(木) 聖木曜日(主の晩餐)
- 聖香油ミサ・10時・カテドラル
- 25日(金) 祭壇奉仕者選任式・10時・カテドラル
- 聖金曜日(主の受難) 大斎・小斎
- 26日(土) 聖土曜日
- 27日(日) 復活の主日
- 川内教会聖体永久礼拝
- 29日(火) 中高中生天草巡礼・31日まで
- 島田喜藏神父命日(一九四八年)
- 31日(木) 河野純徳神父命日(一九八九年)
- 2日(土) 中野裕明神父叙階記念日(一九七八年)
- 3日(日) 復活節第二主日
- 吉野教会聖体永久礼拝
- 10日(日) 復活節第三主日
- 玉里教会聖体永久礼拝



バチカンにて 二〇〇四年九月八日

教皇ヨハネ・パウロ二世

病人への奉仕のために

ザビエル教会で聖体奉仕者四人を任命

ザビエル教会(主任司祭永山幸弘)では、二月二十日(日)のミサの中で四人の信徒が聖体奉仕者に任命された。

聖体奉仕者とは、ミサの中で聖体を拝領する者が多くて時間がかりすぎる場合に司祭に協力して聖体を授けたり、病氣、高齢その他の理由でミサに参加できない人たちのために奉仕する者である。今回の任

命は、信者の信仰生活のさらなる深まりを目指し、永山師が聖体奉仕者の選任を永山司教に願い出て、その許可が出たことによるもの。

ザビエル教会では、病院等で聖体を拝領する信徒は約三十人で、二人の司祭が分担して、聖体を運んでいる。一人の病人を訪問できるのは、一月に一回から二回。現状で

は、信徒の霊的要求に十分応えることができないため、病人のための聖体奉仕者の選任は、以前から求められていた。ザビエル教会ではすでに、シヨファイユの幼きイエズス修道会のシスター溝辺律子が聖体奉仕者として任命されている。

今回は、病人への霊的奉仕をより充実させるということで任命された。任命されたのは松下正美(男性)、柳正子、河南徳子、山田敏子の四氏。彼らはすでに長い間、病人訪問や「きぼうの電話」などの奉仕に積極的に取り組んでいる人たちである。今回の任命に当たって、奉仕者としての知識、心構えを確定するため、関係儀式書の規定を説明する機会を設け、準備に万全を期した。

永山師は、今回の任命によって、同じ月に二回、復活節中は毎週聖体拝領できるようになることを期待している。なお、今回の聖体奉仕の権限は、任命を受けたザビエル小教区内に限られる。

聖歌に魂を吹き込む

典礼聖歌研修会

二月十二日(土)から十三日(日)にかけて、ザビエル教会で同教会主催の典礼聖歌研修会が開かれた。

昨年九月に開かれた同研修会が好評だったことを受けて、今回の講師にも昨年と同じ、福岡サン・スルピス大神学院で典礼聖歌を指導している深堀純(きよし)氏を招いた。

初日は、主に聖歌隊向けで、翌日の主日で歌う答唱詩編などを取り上げた。二日目は聖週間の聖歌を練習した。

参加者は、ザビエル教会以外からもあり、初日は二十名余り、二日目は、七十名余りだった。十三日はミサの中で、実際に深堀氏に指揮をお願いした。

同氏のきびきびとした指揮によって聖歌が歌い進められるにつれ、会衆の声が力強く一つにまとまれ、声を合わせて聖歌をささげることの素晴らしさをあらためて実感した。

研修の中で、答唱詩編は、旧約時代から歌い継がれた伝統ある歌であること、日本の典礼聖歌も、グレゴリオ聖歌のリズムや精神が生きていることなどが教えられた。主の祈りを歌うときは「心の中で手を合わせて」歌ってほしいと、参加者は典礼聖歌を歌う喜びをさらに持つことができた。



<KABAYAN SEKSIYON> "ANG BATAS O KAUTUSAN NG DIYOS"

Mga Kababayan, ngayon ay nalaman na natin ang kahala gahan ng 7 Sakramento ng Simbahan.

Ngayon ang pagninilay-nilayan natin ay ang tungkol sa Batas o Kautusan o alituntunin ng Diyos. Ang batas o kautusan o alituntunin, ay mahalaga sa buhay ng tao, dahil ito ang naggagabay sa tao kung ano ang dapat gawin sa buhay habang siya'y nabubuhay sa mundo.

Saan nagsimula ang batas o kautusan? Ano ang epekto nito sa tao? Ano ang ibinigay at saan dadalhin ng batas ang tao. Tingnan natin ang istorya ng Israel. Sa istorya ng Israel nagsimula ang batas. Ito ang tinatawag na Sampung Salita(Utos) ng Diyos na ibinigay sa kanila. Paano at saan nangyari ang bagay na ito? Nangyari ito, ng mula sa paglisan nila sa Ehipto hanggang sa lupaing-pangako, ay tinanggap nila ang batas o kautusan ng Diyos. Doon sa disyerto nila tinanggap ang Sampung Salita(Utos) ng Diyos. Ngayon ang sinasabing disyerto ay lugar na kung saan ang pamumuhay ng mundo ay nahulog sa paghihirap, o lugar na kung saan mayroon katiwalian o pagkakamali na walang batas na sinusunod.

Tinanggap nila ang Sampung Salita(Utos) ni Yaweng-Diyos na nangako na lalaked na kasama nila. Kaya ang Sampung Salita(Utos) ng Diyos ay tinatawag na pakikipagtipan ng Diyos at ng tao. Dito ipinapakita ang magandang relasyon ng pamumuhay ng Diyos at ng tao.

Ngayon anumang klaseng mundo ang kinalalagyan ng tao, ay palaging may batas o kautusan o alituntunin. Hindi para talian ang tao, kundi turuan ang tao kung ano ang mahalagang bagay na dapat sundin o gawin. Dahil sa batas o kautusan o alituntunin, dito ipinapakita ang magandang relasyon ng Diyos sa tao at ang tao sa kapwa-tao.

Kaya ang batas o kautusan o alituntunin ay nabubuo sa sa dalawang salita: "Pag-ibig sa Diyos", at "Pag-ibig sa kapwa tao".

Ito ang kahalagahan ng Batas o Kautusan o Alituntunin sa buhay ng tao.

主任司祭の金祝に 庭を日本庭園に

出水教会

カテドラルから始められる「聖体永久礼拝リレー」を最初に引き継ぐのが、二十六聖人日本殉教者を保護の聖人とする出水教会(主任司祭・フリチエル神父)。

聖体永久礼拝当番日の三月六日(日)は、同教会の四旬節の黙想会にあたる。迫る当番日に備えて教会では二月六日(日)には

聖体賛美式を行って信徒に永久礼拝についての説明、また聖歌「タントウム・エルゴ」の練習が行われたことか。

その出水教会では、今、一大イベントの準備を進めている。主任司祭フリチエル神父の司祭叙階五十周年がそれだ。四月十日(日)に教会で感謝のミサをささげ、出水市内のホ

テルで記念式典を予定している。それだけではない。教会がある麓地区は武家屋敷群で有名な観光地。「この特性を生かさない手はない」と金祝を迎える老練な神父は教会にビッグなプレゼントを用意している。それは日本庭園。周囲の雰囲気と合うように教会の庭を作り直す作戦に打って出たのである。「観光客が足を踏み入れたくなるような庭ができるよ」と神父さん。費用は約三百万円、三月末の完成が待たれている。

すでに整地をすませた土地を見つめながら、なかなか貯まらない建設資金を思いため息を漏らした。

「聖体の礼拝はいいことだからなんとかしなくっちゃ」と語るのはカテキスタとして活躍している島沢朝江先生(聖母カテキスタ会・七十四才)。宮之城教会や幼稚園、薩米園と走り回る主任司祭のよき協力者で、自らも「心のともしび」と「教区報」を持って信者宅を訪問している。

教会の自慢は、アッシュヤー神父が季節ごとに花で整える花壇と要理教育への意気込み。美しい花々のお陰で、庭にそびえ立つ白く、高い塔が一層その存在感を示してくれている。要理学習会も現在計画中。何と「カトリック教会の教え」を教会の費用で購入、全家庭に配布している。勉強会の実現も間近のようだ。

聖堂が欲しいいなあ

阿久根教会

出水教会からバトンを受けるのは阿久根教会(主任司祭・山口重義神父)。



「聖園老人ホーム」のホールを仮聖堂として使用している。信徒数はホーム入所者を中心に五十人余り。三月十三日(日)が聖体永久礼拝の当番となっている。

ホームに間借りという特殊な教会を切り盛りする山口神父の自慢は、毎朝、多くの信者たちと一緒にミサがささげられること。ホームのお年寄りたちとホームで働くシスターたちが熱心にミサに参列するからだ。そんな神父の顔が一層輝きを増したのは、昨年夏から接触を持っている小学生のことに話が及んだと

入来からバトンを受けられるのは川内教会(主任司祭・ハンマ神父)。串木野に巡回教会を持ち、甌島や市来町、祁答院を含むという管轄地の広いのが特徴。鹿児島デンブトール会出発の地でもある。

教区を代表して

列福への祈り

川内教会

入来からバトンを受けられるのは川内教会(主任司祭・ハンマ神父)。串木野に巡回教会を持ち、甌島や市来町、祁答院を含むという管轄地の広いのが特徴。鹿児島デンブトール会出発の地でもある。

「祈りと聖歌が完ぺきな教会」とはハンマ神父。実は小教区に三十二人ものシスターが所属している。そのため参列者が少なくても、そう感じないのは欠点にもなるかと。また最近ではフィリピン人が増えてきているのも特徴、その率は信者数の二十五%〜三十%にもなるという。

信者数二百九十人余り。聖体礼拝の当番日が復活の主日に重なるためちよっぴり困惑。

「祈りと聖歌が完ぺきな教会」とはハンマ神父。実は小教区に三十二人ものシスターが所属している。そのため参列者が少なくても、そう感じないのは欠点にもなるかと。また最近ではフィリピン人が増えてきているのも特徴、その率は信者数の二十五%〜三十%にもなるという。

信者たちが楽しみにしているのは班会。ミサに出来ない人でも班会には顔を出して、皆と接触してくれるらしい。現在、取り組んでいるのは「川内殉教祭」の在り方についての検討。社会に向かうものへと変えていったらという意見が出されているらしい。ミサがある限り、教区を代表して必ず唱えるというのが「レオ七右衛門の列福を願う祈り」。薩摩の殉教者レオの列福を願う川内の信者の意気込みが教区民の祈りの唱和が切望される。

信者たちが楽しみにしているのは班会。ミサに出来ない人でも班会には顔を出して、皆と接触してくれるらしい。現在、取り組んでいるのは「川内殉教祭」の在り方についての検討。社会に向かうものへと変えていったらという意見が出されているらしい。ミサがある限り、教区を代表して必ず唱えるというのが「レオ七右衛門の列福を願う祈り」。薩摩の殉教者レオの列福を願う川内の信者の意気込みが教区民の祈りの唱和が切望される。



教区教区年間行事予定決まる

〇五年三月〜〇六年三月

- 三月
- 1日(火) 奄美例会
 - 6日(日) 朗読奉仕者選任式・聖体礼拝(出水)
 - 13日(日) 聖体礼拝(阿久根)
 - 18日(金) 教区創立記念日
 - 20日(日) 聖体礼拝(入来)
 - 24日(木) 聖香油ミサ・祭壇奉仕者選任式
 - 25日(金) 聖金曜日
 - 26日(土) 聖土曜日
 - 27日(日) 復活祭・聖体礼拝(川内)
 - 29日(火) 中高生巡礼31日
- 四月(司祭百命祈願月)
- 3日(日) 聖体礼拝(吉野)
 - 5日(火) 奄美例会
 - 10日(日) レジオマリエラチエス・聖体礼拝(玉)
- 五月
- 1日(日) 聖体礼拝(谷山)
 - 5日(木) レデンブートル宣教師道女会来日40周年
 - 8日(日) 教区財務委員
 - 11日(水) 大神学院会議
 - 15日(日) 聖霊降臨祭・聖体礼拝(大熊)
 - 16日(月) 教区司祭会・レデンブートル会例会
- 六月
- 5日(日) 聖体礼拝(古田町)
 - 12日(日) 班長研修会・聖体礼拝(古仁屋)
 - 19日(日) 聖体礼拝(母間)
 - 20日(月) レデンブートル会例会
 - 26日(日) 聖体礼拝(和泊)
 - 27日(月) 教区司祭会
 - 28日(火) 定例司祭集会
- 七月
- 3日(日) 奄美信徒研修
- 八月
- 1日(月) アルフォンソ祭
 - 6日(土) カトリック平和
- 九月
- 4日(日) 聖体礼拝(溝辺)
 - 11日(日) 聖体礼拝(大口)
 - 12日(月) レデンブートル会例会
 - 15日(木) 教区の日
- 十月
- 18日(日) 聖体礼拝(ザビエル)
 - 19日(月) 司教区昇格式典
 - 20日(火) 定例司祭集会
 - 十月(司祭百命祈願月)
 - 17日(日) 教区司祭会
 - レデンブートル会例会
 - 18日(火) 定例司祭集会
 - 29日(土) 聖体の年終わる・青年の集い30日
- 十一月
- 3日(木) 教区典礼研修会
 - 14日(月) 司祭評議会・レデンブートル会例会
 - 15日(火) 定例司祭集会
 - 20日(日) 川内殉教祭
 - 21日(月) 大神学院会議
 - 22日(火) 神学院祭
 - 29日(火) 奄美例会
- 〇六年一月
- 9日(月) 教区司祭会
 - 23日(月) 司祭評議会・司祭大会・26日
 - 26日(木) 定例司祭集会
- 二月
- 13日(月) レデンブートル
- 三月
- 1日(水) 灰の水曜日
 - 14日(火) 奄美例会
 - 18日(土) 教区創立記念日
 - 25日(土) 司教区昇格記念

集いのお知らせ

- ◆フリチエル神父司祭叙階50周年(金祝)式典 4月10日(日) 記念ミサ11時(出水教会) 祝賀会12時30分(ホテルキング) 会費3,000円※当日受け付け。祝賀会出席希望の方は、4月3日までに出水教会・大山まで(☎0996-62-0153)
- ◆黙想会 「イエスとの関係を深めて」 4月16日(土) 10時〜17日(日) 16時 マリア山荘 講師:W・キップス神父(レデンブートル会司祭) 申込先:西(☎0995-63-1943) / 宮地(☎099-262-4022) ※持っている方は聖書、黙想のしおり(2〜4月分)

文芸

短歌(思川短歌会作品)

出水 遠竹陸郎
フランスの直輸入なる果実酒を夕餉に
飲みて微かに酔へり
(評) 結句の「微かに酔へり」がよい。
声にしておはよと言ふ学生が自分の花をさかせてくれる
(評) 自由詩のような清々しさがよい。
阿久根 中津濱フサエ
早朝のミサの窓辺に降りしきる雨か
あられか気掛かりの音
鹿兒島 春山マリ子
誕生日祝って貰う幸せは天にも昇る
喜びなりき

俳句(思川俳句会作品)

純心学園 山頭信子
桜島噴煙あげて持久走
(評) 完歩完歩の笑顔がうかぶ句。「噴煙あげて」がよい。

鹿兒島 前田儀子

ヒルテイの「眠られぬ夜のために」を
読みてあし夫の恋しも逝きて久しき
阿久根 眞清水 藍
きざらぎの寒気に冴えて祭服の紅清し殉
教者のミサは
大口 森 博伸
ミサを終え帰りを急ぐ信徒らにも言い
たげな老いし司祭よ
古仁屋 豊島忠司
早春の風が白布を煽り吹く礼拝堂に陽が
差し初むる

出水 遠竹陸郎

嗚へと帰る鴉や春の暮
受験子を見守る母の祈りかな
鹿兒島 春山マリ子
我が命愛しく思う冬椿
鹿兒島 本城 愛
剛ぶし噴煙湧かせる万びと
名瀬 松畑義弘
常緑の頭角現す緋寒桜
阿久根 眞清水 藍
今日よりは口紅うすく四句節
鹿兒島 龍門司真人
虎杖や清しく摘んで浸し食む

孫娘の洗礼式に

アメリカから祖父母来島

大笠利

西イザベラちゃんが二月六日(日)大笠利教会で幼児洗礼のお恵みを受けました。
父親は笠利二区の西浩信さんで、母親はアメリカから英語講師として来日したシェリーさんです。シェリーさんは英語指導の合間に地域行事に参加して、島の伝統文化に魅せられ八月踊りが大好きになりました。道の島太鼓にも熱中しました。そしてシマ太鼓の縁で結ばれた結婚です。
長男の汰偉羅(タイラ)君は、平成十二年に母親が里帰りアメリカに帰ったときに、アメリカの祖父母のもとで幼児洗礼を受けており、今は笠利聖母保育園の年長組です。親譲りの太鼓が大好きで、大人顔負けの人気者です。
今回アメリカから孫娘の洗礼の喜びにわざわざ来日



ザビエルさまの散歩道

最近、街中でやけに自動車学校の教習車が目に付く。「ああそうか、高校生が卒業前に免許を取りに行っているのか」。この時期は卒業を控え何かと慌ただしく、人との別れと、新たな出会いに向けての準備の季節。
ザビエルは一五三〇年の三月にパリの大学を卒業したが、その時はまだ自分の地位と名声を得るために生きていた。しかしイグナチオ・ロヨラの熱心な勧めもあって、次第にイエスの十字架にある救いにこそ価値があることを知っていく。イグ

ナチオがザビエルに言い続けたのは「たとえ全世界を手に入れても、魂を失ったら何の益があるのか」。その後、イエズス会の創立を経て、卒業から十年後の一五四〇年の三月一日、イグナチオからの「明日、インドへの宣教に行ってくださいか」という要請に、ザビエルは「はい」と応えた。そして、インドを経て日本にまで来る事になる。
今までの自分のン年前の卒業とたたくさんの出合いをふっと思い出しながら「よい出合いに精一杯応えてきたかなあ〜これからまた頑張ろう!」と思う。

カトリック新聞

1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします

カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com

